

皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
 ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp



よいことのために手を取りあおう

UNITE
FOR
GOOD

第1704回例会 令和7年10月9日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。月初めの会長の時間では、米山さんとロータリーとの関係についてお話しします。東京ロータリークラブが出来て、4年後くらいに大阪のクラブが出来て、更に1年後くらいに関東大震災が起きました。不幸な事でしたが、ロータリーに対する考え方を変えた大きな切っ掛けになったという事で、米山さんの記録の中にも取り上げられています。



会員に意識改革をもたらしたのが未曾有の大災害、関東大震災であった。大正12年9月1日の関東大震災のニュースが世界を駆け抜けると、世界各地のロータリーから救援の手が、救援の思いが続々と寄せられた。これが世間に広くロータリーを印象づけることになった。読ませていただきます。

日本のロータリーは、大変な不幸を経て、大変革を遂げたともいえる。東京クラブは、震災後、例会を開く場所がないため休会した。10月1日、銀行集会所の食堂が開かれることになったので、10月10日に例会を開いた。しかし、出席会員は27人、53%の出席であった。このときは、会長、副会長が欠席だったため、米山が例会を主宰した。米山は、震災のとき軽井沢にいた。とるものもとりのあえず、何はともあれ東京に帰ってきた。米山は、出席者にこもごも自分の体験や様子を述べさせた。

その後の10月24日の例会は、創立記念日のお祝も兼ねたので、出席者も多かった。このとき、米山は、大震災に対する国際ロータリーや各地のロータリークラブの同情と好意、しかも素早い処置に触れるとともに、9月4日付の国際ロータリー会長の電報（国際ロータリー及び全ロータリークラブを代表して深甚なる同情の意を表す。何でも御手伝いすることあれば幸いです。）や書面、その後各地から寄せられた見舞状等を読みあげた。

そして、会員にロータリー精神の発揚とこれに基づく活動の必要性を訴え、改めて各地に対し感謝の意を表すべきであるとした

震災後の第3回目の例会は、11月14日であった。ここで、米山は、「東京クラブの例会が月1回であるのは、国際ロータリーの通念から見ると変則であるが、創立当時の事情からやむを得

なかった、震災復興の困難な事業に直面した今日において、会員はロータリーの大きな目標を達成するために、更に深い友情と親睦を確立する必要がある、これからは毎週1回例会を開くことにすべきことを提案する。」と語った。この提案は、満場一致の賛成を得た。

今までどうしてもできなかった毎週1回の例会を開くことが出来るようになった。これも大震災のもたらした結果である。震災の好意に対するお礼やこれらのことを報告した東京クラブの会長に対し、国際ロータリーの会長から、「毎週例会を開くようになったという情報は、非常な喜びである。」という返事がきた。国際ロータリーとしても東京クラブのこの変則は、頭痛の種であったことであろう。

【幹事報告】

山田 利明

1. 地区事務所より
 - ①ガバナーノミニージェグネートの宣言及び略歴
 - ②ロータリー文庫通信
2. 米山記念奨学会より
 - ①ハイライト米山
 - ②米山学友の群像
 - ③2024年度決算報告書
 - ④2024年度事業報告書
 - ⑤米山委員長の手引き



【理事役員会報告】

プログラムについて

10月	2 木	休会	
	9 木	通常例会	理事役員会
	16 木	会員卓話	
	23 木	休会	
	30 火	親睦夜間例会	わかば
11月	6 木	通常例会	理事役員会
	13 木	米山月間卓話	米山記念奨学生
	23 日	地区大会	11/20より振替
	27 火	親睦夜間例会	養浩亭





四つのテスト

高田 富康会員

私は、人生は出会いだと思っています。車が好きなので、クラシックカーイベントは今の所4つ。来月私が主催するイベントも行います。

今年も楽しい秋を過ごしたいと思っています。またイベントには新しい人が来るので、出会いもあります。

12月で70才になりますので、どれだけ楽しめるかという事で、いろいろ頑張っていきたいと思います。

ニコニコボックス

♪初曾孫誕生

板谷 定美

合計 2,000 円

出席率

免除以外の 会員	出席免除 会員	出席	メイク	出席率
8	0	6	0	75.0%

ロータリーの友の音読

共感力は ロータリーも強くする

盛岡中央 吉田 宗作

『ロータリーの友』2025年6月号縦組み「スピーチ」、近藤誠一氏の「文明と文化」平和な社会のための役割」のうち、7ページの「歴史と脳がつくり上げた共感力」のくだりに引かれました。

人間の祖先がジャングルから草原に出て、遠くを見るために二本足で立ち、両手が空いたことで、物が運べるようになる。肉食獣を避けるために見張りを立て、食料は取る人とシェアする。泣く子を慰めるためにメロディーを作り、それが芸能に発展して、共感力を増すのに貢献したと書かれていました。つまり、目の前で起きていることのために必要な行為を考え、それが人間を進化させてきたのだと思いました。

その意味では、ロータリーも「仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい」というポール・ハリスの「必要なこと」に賛同した人々によって世界へと広がったわけですが、身近だった課題や問題を、いつしか世界へと広げ過ぎていたのではないのでしょうか。例えるなら、自分たちが空腹なのに、心から他人にご飯を譲ることができるのかどうか。まずは家族、従業員、友人、仲間といった身近な人たちに目を向けていくことが必要だと思います。会員が減少傾向にある根っこは、組織が大きくなったことで、入会のハードルを上げ過ぎてしまった部分が、少なからずあるのではないかと考えます。ハリスの「仲間を増やしたい」という気持ちに立ち返り、会員を増やす意義を考えてみてはいかがでしょうか。

(第2520地区 岩手県 飲食業)

ロータリーが伝える 共感による力

山南 加藤 慶昭

以前、当地区グループ3のインターシティミーティング（IM）で演台に立った、NPO法人地球のステージの代表理事 桑山紀彦氏が、紛争が続くパレスチナ・ガザ地区の子供たちの医療支援を行っているとの報に触れた。そうしたことで、この紛争をより身近に感じることができた。その様子をニュースで目にするにつけ、これを人ごとと見なすことを、私の心が許さない。人間とは何か、と鋭く問いかけられていくのだ。

桑山氏が当時、IMで語ったのは、内戦下のソマリアにおける緊張の中での治療。かいたもく死にゆく子どもの姿、極限状態の日々の中で「ボランティアは人のためではなく、自分のためでいい」と自らに認めたことで、気負いが消えていったという。苦しい旅路の果てに得たものは、医師として安定したレベルを歩む道ではなく、貧困の中でも創意と工夫、希望を持って生きる子どもたちと向き合ってきたこととだった、と語った。

ポール・ハリスらによってロータリーが創設された1905年当時、アメリカ・シカゴは社会が荒廃し、人間関係の希薄さに対する強い問題意識があったという。現在の世界も自己主張がぶつかり合い、国と国、思想と思想、宗教と宗教など、さまざまな分断が生じている。その

中で、ロータリーは政治的中立を守りながら、世界理解と平和の推進を掲げ、地道に人と人とを結ぶ活動を続けている。ロータリアンの倫理的行動の指針となる「四つのテスト」、親睦と奉仕、寛容の精神こそ、今必要とされる価値観と考える。

ロータリアンが平和に寄与するためには、単に「正しいこと」を押し付けるのではなく、相手の背景や感情に寄り添い、理解すること。寛容とは、意見の相違を認めつつ、共に歩む力のことをいう。

また、喜怒哀楽の共有は、理屈では埋められない心の絆をもたらす。アートや音楽、文学といった文化的価値を共に味わうことで、人々との共感が深まり、平和への土壌も育まれていくのであろう。

今年4月20日、私たち山口南RCの内山望美会員（職業分類・音楽）が、初めてのリサイタルを広島市で開いた。その情感あふれる歌声から、私は魂が呼び覚まされたような気持ちになり、目が潤んだ。一般の来場者をはじめ、多くのロータリアンの心にも、感動が染み渡ったことだろう。

音楽家を目指していた内山会員は、父上の急逝により、25歳の時に認知症のグループホームの運営を引き継ぐことになった。歌は封印。2023年に私たちのクラブに入会し同志となった内山会員はしかし、亡くなる直前に父が語った、「音楽をやりたいなら、死ぬ気でやれ」という言葉を忘れず、経営者と音楽家の二足のわらじで、初のリサイタルへとこぎ着けた。自らをぎりぎりまで追い込みながら、前に進むものとする姿がすごい。

(第211地区 山口県 警備保護)



エッセー、随筆のロータリークラブ店開設、時局随筆など、1,000字以内、関連写真があれば添付してください。